

涙が出ない日になかったのだ。ブラジル在住の奄美大島出身者への聞き取りを目的としていた本調査は、予定していた語り手が高齢のため体調が優れないとの事で、もしかしたら調査が出来ないかも知れないという状況からスタートした。また、自国開催のW杯がようやく終了し、10月には4年に一度の大統領選挙を控えたブラジルの国内情勢は未だ不安定で治安が悪く、私の恐怖心も日々増していた。言葉の問題、治安の問題そして調査が思うように出来ないのではないかと不安を抱えて着いたサンパウロは、春を迎えあちこちで花々が咲き始めた美しい街だった。

到着してすぐに私を苦しめたのは、やはり言葉の問題だった。ポルトガル語で表記された洗濯機をどう扱って良いのか分からず、辞書を片手に洗濯機と格闘していたところ、ブラジル人の少女がどこからか現れた。彼女は身振り手振りで洗濯機の使い方を教えてくれ、洗濯が終わるまで私たちは一緒に筆談をも加えながら互いについて紹介しあった。彼女だけではない、スーパーの店員もタクシーの運転手も出会ったブラジル人は皆彼女のように人懐っこく親切だった。ブラジル人だけではない、ブラジルで出会った日系人たちもまた、とても親切だった。

調査3日目、奄美大島出身のH氏との偶然の出会いが本調査に驚くような展開をもたらす。出会ったばかりのH氏に突然の聞き取り調査をお願いして話を伺っていた。突然のことで十分な聞き取りができず、後日改めて再調査をお願いしたところ、これまたそばにたまたま居合わせたSさんがサンパウロから50キロ程遠方にあるH氏のご自宅まで連れて行ってくれると申し出てくれた。その有り難い申し出に甘えて、翌日Sさんの車でH氏のご自宅へ向かった。途中Sさんのご自宅にも立ち寄らせていただき、ブラジルで一、二位を争う規模

というSさんの蘭栽培場を見学することができた。その後H氏のご自宅に到着し、H氏の営む仕出し工場を見学後、H氏のご家族と会食、そのままご自宅に宿泊させていただいた。H氏は仕出し料理会社の他に花卉栽培も営んでおり、翌日は中央卸売市場のH氏の店舗で花卉販売の手伝いをさせてもらった。それだけではない、H氏には多くの奄美大島出身者を紹介していただき、予定していた以上の聞き取り調査を行うことができた。さらに私の歓迎会として奄美大島出身者とその家族たちをご自宅に呼んで盛大な食事会を開いてくださった。H氏やその友人たちのおかげで調査だけでなくサンパウロ滞在の素晴らしい思い出もできた。

また、当初聞き取りを予定していた奄美大島出身者にもお会いすることができた。こちらもT氏という奄美大島宇検村出身の方が、彼の一族と宇検村出身の人々を集めて食事会を開催してくれたのおかげで、調査を行うことができた。

このような温かいもてなしは奄美大島出身者だけではなく、サンパウロで出会った全ての人々から受けた。毎日、毎日、ブラジルの人々の優しさにふれて、感動で涙が出ない日はなかった。人から人への温かい優しさの繋がりののおかげで、調査を無事に終えることができた。わずかな経験だがこれまでも各地で聞き取り調査を行ってきた。しかしここまで多くの人々の協力を得られた調査は初めてだった。まさに奇跡の連続としか形容しようのないブラジル調査であった。サンパウロでの日々を思い出すと今でも涙が出る。この人々の優しさに支えられて出来た調査の成果を必ずブラジルの人々にお返ししなければ、と思う。ブラジルで出会った全ての人に、言葉では言い表せないほど感謝している。Eu agradeço. Muito obrigada por tudo!

セントラル・ユピックの狐仮面と狐伝承について

—UBC 図書館と人類学博物館の調査報告

程 亮

(歴史民俗資料科学研究科 博士後期課程)



2014年10月17日から11月3日まで、非文字資料研究センターの若手研究者として、カナダバンクーバーのブリティッシュ・コロンビア大学(The University of British Columbia, 略称UBC) アジア学科を訪問し、欧米学者による東アジアの狐伝承に関わる文献を調査、また各地域社会の狐伝承の実態を明らかにすることを目的として、UBC人類学博物館(UBC Museum of Anthropology, 略称MOA)で北米先住民の狐の仮面及び仮面踊りに関して調査を行った。

まず、バンクーバー公共図書館(Vancouver Public Library, 略称VPL)とUBC図書館で狐伝承に関わる文

献調査を行った。VPLはバンクーバーにあるカナダ第三の規模を誇る市立公共図書館で、130万点以上の蔵書を所蔵している。UBC図書館はカナダで第二の規模を誇る研究図書館で、中央図書館と分館合わせて23号館の中に合計で590万冊以上の蔵書などを所蔵している。今回は、VPL、UBCバンクーバーキャンパスにあるWalter C. Koerner Library、Irving K. Barber Learning Centre、Asian Libraryの4館を中心に調査した。日本の狐伝承に関わる主な研究に、Kiyoshi Nozaki (1961)『KITSUNÉ:Japan's Fox Mystery, Romance & Humor』、Karen A. Smyers (1999)『The Fox and the Jewel :



Shared and Private Meanings in Contemporary Japanese Inari Worship』, Michael Bathgate (2004) 『The Fox's Craft in Japanese Religion and Folklore : Shapeshifters, Transformations, and Duplicities』などが挙げられるが、中国の狐伝承に関わる主な研究に、Xiaofei Kang (1999) 『The Fox [hu 狐] and the Barbarian [hu 胡]: Unraveling Representations of the Other in Late Tang Tales』, Xiaofei Kang (2000) 『Power on the Margins : The Cult of the Fox in Late Imperial China』, Xiaofei Kang (2006) 『The Cult of the Fox : Power, Gender, and Popular Religion in Late Imperial and Modern China』, Rania Huntington (2000) 『Foxes and Sex in Late Imperial Chinese Narrative』, Alien Kind (2003) 『Foxes and Late Imperial Chinese Narrative』, Thomas David Dubois (2005) 『The Sacred Village : Social Change and Religious Life in Rural North China』などがある。また、東アジア以外の狐伝承に関わる研究に Kenneth Varty (1999) 『Reynard, Renart, Reinaert and Other Foxes in Medieval England : the Iconographic Evidence』, Martin Wallen (2006) 『Fox』が挙げられる。

次に、UBC 人類学博物館 (MOA) で北米先住民の動物仮面及び仮面踊りに関して調査を行った。MOA は、UBC の敷地内にあり、ハイダ族⁽¹⁾などのファースト・ネーション (北米先住民) の生活文化に焦点を



写真1 UBC の中央図書館
Walter C. Koerner
Library

当てた博物館で、先住民によって造られた彫像やトーテムポールなどの展示があり、そのコレクション数は50万点以上にものぼり、世界でも有数の仮面を有する博物館である。北米先住民にはエスキモーとインディアンがあるが、今回は、エスキモーに属するセントラル・ユピックを中心に、その動物仮面と仮面踊りを調査した。

北米先住民の間で生成された仮面の文化が20世紀になってから消失していったが、1960年代以降、民族文化の復興運動が起こり、それぞれの民族で独自の仮面が作られ、自



写真2 UBC 人類学博物館 (MOA)

分達の民族の祭りで使用するようになってきている。20世紀後半に入ると、仮面の制作とその儀礼での使用は急速に姿を消して、現在では土産用としての制作が中心に

なっている。

アラスカ西部ヌニバク島のユピックの木製仮面は、周囲に輪や小さな動物像を配し、想像力豊かな表現でよく知られている。MOA には、アラスカのヌニバク島やアラスカ半島で収集された合計7点のセントラル・ユピックの動物仮



写真3 セントラル・ユピックの狐の仮面 (MOA 所蔵)

面が所蔵されているが、その中に、狐の仮面と半人半狐の仮面が2点あった。

北米北西海岸のユピックの世界では、全てに霊、つまりおのおののエネルギーの源となるものがあり、その霊によりおのおのものに潜在的に行動力と性質が与えられていると考えられている。狐は重要な毛皮獣として認識される一方、霊の宿る存在としても見なされる。ユピックは、狐や狼やアザラシなどの仮面をつけて踊った。祭りにも、ひまつぶしにも、あるいは周囲の人を楽しませるためにも踊ったし、本人が好きだからといって即興的に踊ることもあった。

今回の調査において、自分の研究課題に関わる大量の文字・非文字資料を得ることができた。このような調査の機会を与えてくださったブリティッシュ・コロンビア大学アジア学科 Nam-Lin Hur 先生、Xiaoyi さん、神奈川大学非文字資料研究センターの内田青蔵先生、事務の彦坂綾さんをはじめお世話になった皆様に心よりお礼申し上げます。

【注】

- (1) ハイダ族 (Haida) は主にカナダ・ブリティッシュコロンビア州に居住する先住民民族 (ファーストネーション)。一部はアメリカ合衆国アラスカ州にも居住区がある。その芸術に、トーテムポールが有名である。

【参考文献】

1. ジャン・ルイ・ベドゥアン 『仮面の民俗学』、白水社、1963年
2. アーネスト・S・バーチ Jr 『図説エスキモーの民族誌——極北に生きる人びとの歴史・生活・文化』、原書房、1991年
3. 佐々木重洋 『仮面パフォーマンスの人類学—アフリカ、豹の森の仮面文化と近代』、世界思想社、2000年
4. 吉田憲司 『世界の仮面 (みんぱく発見6)』、千里文化財団、2001年
5. 佐原真、勝又洋子 『仮面そのパワーとメッセージ』、里文出版、2002年